

文部科学省 大学改革推進等補助金
大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業

平成27年度

日本災害医療学生研修

Japan disaster medical hands-on training for student



岩手医科大学

災害時地域医療支援教育センター

Center for research and training on community health services during disaster

INDEX

ご挨拶	2
実施要領	2
研修プログラム	2
講義／机上シミュレーションの様子	4
実習の様子	7
研修を終えての感想	10
アンケート集計結果	11
平成27年度 日本災害医療学生研修を終えて	14
参加者名簿	15
スタッフ名簿	15



いわて花巻空港参集Drヘリ一覧

Total 1300 1800 1800 1300 1800

Drヘリパーソン	1	2	3	4	5
機体	1	2	3	4	5

Logistics
 training course of medicine
 logistics for disasters
 Iwate Medical University
 center for research and
 training on community
 health services during disaster



日本災害医療学生研修にお集まりいただきありがとうございます。岩手医科大学では文部科学省補助事業の採択を受け、昨年度から全国の医学生を対象とした日本災害医療学生研修を企画・開催しております。今回は第2回ということで、対象を医学生から医療系学生全般に広げて募集をいたしましたところ、17名の学生の皆さんにご参加頂き、本当にうれしく思っております。感謝申し上げます。

東日本大震災の発災から4年半の月日が経過しました。その後も日本では御嶽山の噴火や、広島土砂災害、関東・東北豪雨による特に常総地域での水害など大小さまざまな災害が発生しています。また、海外に目を向ければ、チベットの地震や、中国上海での爆発事故、紛争・テロの発生など、多種多様な災害が発生しています。

この研修は、東日本大震災が発災した時の様々な思いを風化させないという思いと、近い将来必ず起きるであろう大規模災害に備え、皆さんのような医療人を目指している若い方々に災害医療に興味を持っていただきたいという思いで開催しております。今回は実際に東日本大震災で被災されながらも、現地の病院で医療活動の維持・継続に尽力された先生を講師としてお招きし、貴重な体験談を披露して頂く予定です。かなりタイトなスケジュールではありますが、充実した研修内容になっております。また、医師、看護師、作業療法士を目指している学生の皆さんにご参加頂いておりますので、他職種間の交流もぜひ深めながら、しっかりと災害医療について学んで頂ければと思います。

岩手医科大学 災害時地域医療支援教育センター センター長
災害医学講座 教授 眞瀬 智彦

実施要領

1. 目的

この研修会は医学・医療系学生の立場から、災害医療概論の講義や、トリアージ訓練等の実習を通じて、災害医療に関する基礎知識を習得し、災害医療に対する考え方を学びます。また、卒業後に各医療機関へ就職した後も、災害医療に興味を持っていただけるような研修内容とし、今後の災害医療を担う人材の育成を目指します。

2. 開催日と開催場所

平成27年12月19日(土) 10:00~17:00 岩手医科大学矢巾キャンパス
災害時地域医療支援教育センター

※オプションとして、12月20日(日)に被災地沿岸部を見学するコースを設定。
【希望者のみ：有料3,000円程度(交通費として)】

3. 研修対象と受講定員

全国の医学・医療系学生30名
(学年不問。申込者多数の場合は、地域等を考慮し選考とさせていただきます。)

4. 研修内容

講義『災害医療概論』『トリアージについて』ほか
実習『トリアージ訓練』『情報通信訓練』『がれきの下の医療』ほか
オプション：被災地沿岸部見学コース【希望者のみ】
見学場所：岩手県沿岸部(宮古市田老地区)

被災した町や宿泊施設を見学し、当時の経験や現在の状況を伺いながら、意見交換を行います。

5. 参加費

無料 但し、下記の費用は自己負担とする。

- ◆各自出発地⇄岩手医科大学災害時地域医療支援教育センターまでの交通費及び宿泊費
- ◆懇親会費(1日目に予定)
- ◆1日目の昼食代
- ◆オプション見学コースの交通費(3,000円程度)、昼食代等

6. 問い合わせ先

岩手医科大学矢巾キャンパス 災害時地域医療支援教育センター事務局
住所：〒028-3694 岩手県紫波郡矢巾町西徳田2-1-1
電話番号：019-651-5111(内線 5563、5564)
FAX番号：019-611-0876
E-Mailアドレス：saigai@j.iwate-med.ac.jp

研修プログラム

9:30~10:00	会場受付
10:00~10:10	開会の挨拶
10:10~10:50	講義 災害医療について 講師 岩手医科大学災害医学講座 教授 眞瀬 智彦
11:00~11:50	講義 トリアージについて 講師 岩手医科大学災害医学講座 助教 藤原 弘之
11:50~12:50	昼休み
12:50~13:20	講義 情報通信訓練 講師 岩手医科大学災害時地域医療支援教育センター 奥野 史寛
13:20~14:10	机上シミュレーション 避難所運営 講師 岩手医科大学災害医学講座 教授 眞瀬 智彦
14:20~16:00	実習 がれきの下の医療 講師 岩手医科大学災害医学講座 教授 眞瀬 智彦 講義 災害時におけるメンタルヘルスケア 講師 東北大学病院災害対応マネジメントセンター 助手 阿部 喜子
16:15~16:45	被災地を知る 後期研修医の目線で感じた震災時の状況と、その後の取り組み 講師 岩手医科大学産婦人科学講座 医師 千田 英之
16:45~17:00	修了式



災害医療について

岩手医科大学災害医学講座 教授

眞瀬 智彦

岩手医科大学災害医学講座の眞瀬先生に災害医療の概論と東日本大震災での医療活動についてご講義頂きました。

災害医療と救急医療の相違点や災害時医療対応の原則（CSCATTT）、トリアージの考え方や、阪神淡路大震災以降、その教訓を活かして整備されてきた災害医療の取り組みと東日本大震災時の岩手県の状況、被災地で展開された医療活動が紹介され、今後起こり得るであろう東南海・南海地震への対応や、東日本大震災の教訓を受けての課題について解説して頂きました。

配布資料 (http://www.iwate-med.ac.jp/saigai/training/practicalDM/docs/2015_slide01.pdf)



トリアージについて

岩手医科大学災害医学講座 助教

藤原 弘之

災害発生時には、医療資源と傷病者数との不均衡の中で、より多くの命を救うことが求められます。そのために治療や搬送の順位付け、すなわちトリアージを行うことが必要となります。トリアージの概念、手法などについての説明を受けた後、呼吸・循環・意識の状態より簡便に評価を行うSTART法の実習を行いました。カードゲームや、模擬患者の状態を確認しながらトリアージタグに記載を行うトレーニングを行いました。

START法では迅速な評価が必要とされるため、30秒で状況確認・評価を終えるようにしなければならず、慣れない受講者はだいぶ苦戦をしていたようでした。

配布資料 (http://www.iwate-med.ac.jp/saigai/training/practicalDM/docs/2015_slide02.pdf)





情報通信訓練

岩手医科大学災害時地域医療支援教育センター

奥野 史寛

混乱している災害現場での活動では、情報の収集と正確な伝達は安全かつ有効な現場活動を進めるにあたって非常に重要となります。

東日本大震災で日本DMAT業務調整員として活動された奥野先生より、情報通信のツールである衛星電話とトランシーバーについて、基本的な使い方の説明と実機の紹介をしていただきました。実際にトランシーバーに触れて通信の実習も行い、普段使い慣れている携帯電話と異なり、同時通話ができない反面、1対多数通信が可能なトランシーバーの使い勝手などを体験していただきました。

配布資料 (http://www.iwate-med.ac.jp/saigai/training/practicalDM/docs/2015_slide03.pdf)



避難所運営

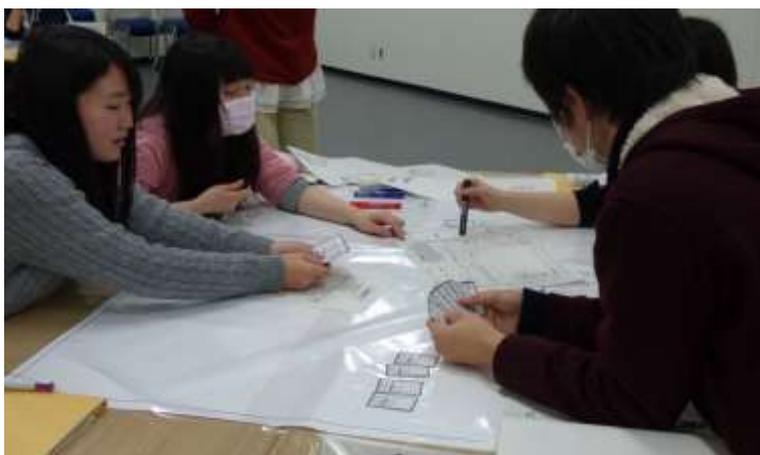
岩手医科大学災害医学講座 教授

眞瀬 智彦

大規模災害が発生し、避難所を開設しなければならなくなったときを想定した机上シミュレーションを行いました。東日本大震災では家屋が津波で流失してしまったため、多数の被災者の方々が長期間の避難所生活を余儀なくされました。そのため、避難所の運営に当たっては、トイレ衛生や環境衛生、個人衛生などの公衆衛生問題や、障害者、女性、子供支援の問題、夜間の避難所の管理や避難所を長期間管理運用するためのリソース偏在等々の問題が発生しました。

ここでは、学校の体育館を避難所にすることを想定し、机上のマップを用いて、次々と避難所を訪れる被災者を配置し、プロブレムリスト、案内・掲示、連絡事項などをまとめながら避難所運営を行うシミュレーションをグループごとに行いました。

配布資料 (http://www.iwate-med.ac.jp/saigai/training/practicalDM/docs/2015_slide04.pdf)



災害時におけるメンタルヘルスケア

東北大学病院災害対応マネジメントセンター 助手

阿部 喜子

PFA（サイコロジカル・ファースト・エイド）とDPAT（災害派遣精神医療チーム）について、東北大学病院災害対応マネジメントセンターの阿部先生よりご講義頂きました。被災された方の中には深刻な危機的出来事に見舞われ、心的ストレスを受け精神的なダメージを負う場合があります。そのような方々に対して、現状以上のダメージを受けることを防ぎ、回復に向けてのサポートの仕方について説明をして頂きました。また、DPAT（災害派遣精神医療チーム）の活動について、最近発生した御嶽山の噴火や関東・東北豪雨での具体的な事例も交えながらご紹介頂きました。



配布資料 (http://www.iwate-med.ac.jp/saigai/training/practicalDM/docs/2015_slide05.pdf)



後期研修医の目線で感じた震災時の状況と、その後の取り組み

岩手医科大学産婦人科学講座 医師

千田 英之

東日本大震災時に、被災地域の災害拠点病院である岩手県立宮古病院で産婦人科の後期研修医だった千田先生より、被災時の状況とその後の取り組みについてご講義頂きました。

県立宮古病院は高台にあるため津波の直接的な被害はありませんでしたが、宮古港や宮古市役所付近、田老地区、隣接した山田町の市街地など、管轄する医療圏は壊滅的な被害を受けました。千田先生には、被災後の県立宮古病院の混迷した状況を写真を交えながらご説明頂きました。いつ終わるとも判らない状況の中、家族の安否確認もままならない状況で、傷病者や外部から参集するDMAT・医療班の受け入れを行い、医療圏を支えた病院職員の皆さんの様子をご紹介頂きました。



配布資料 (http://www.iwate-med.ac.jp/saigai/training/practicalDM/docs/2015_slide06.pdf)





瓦礫の下の医療

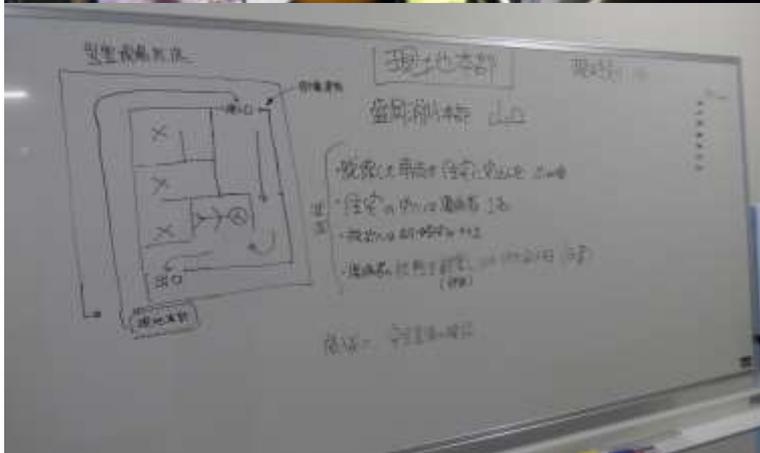
岩手医科大学災害医学講座 教授

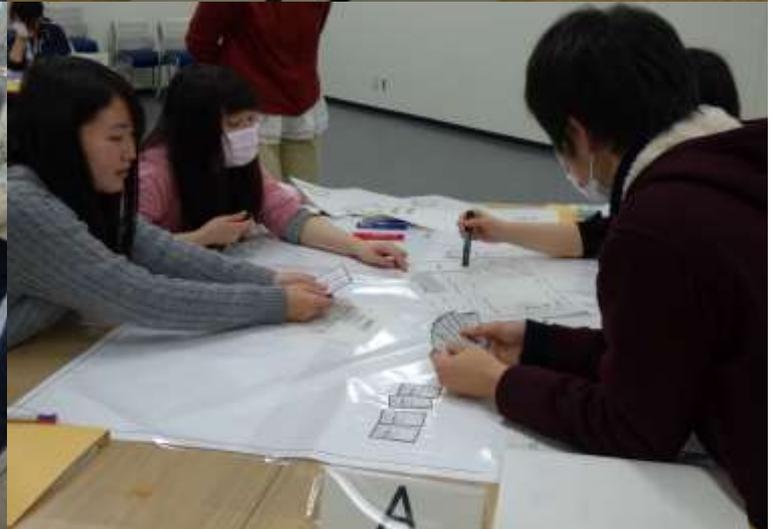
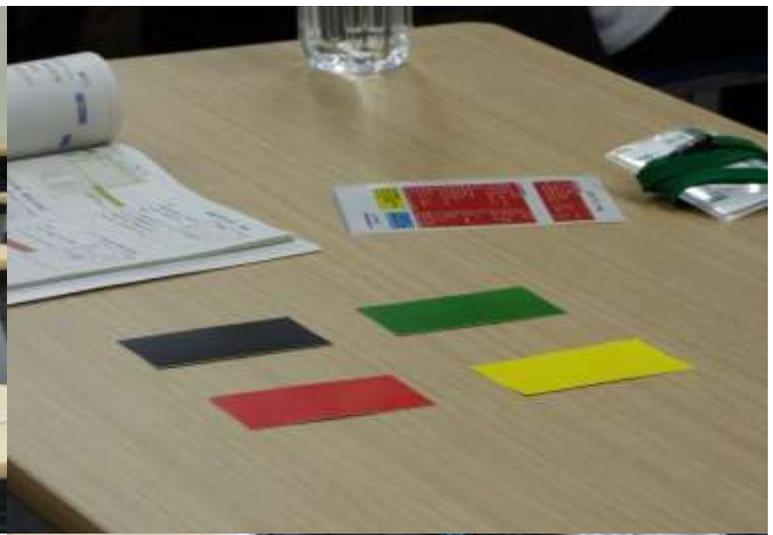
眞瀬 智彦

災害時におけるPreventable Deathをなくすためには、救助活動中からの医療活動が有効ですが、がれきの下の医療は危険と困難を伴います。ここでは、がれきの下の医療を疑似体験することで、安全への意識向上、自分の身は自分で守らなければならないということを実感して頂くために、当センター内に常設しているCSM訓練用施設を用いたシミュレーションを行いました。

地震で倒壊した建物の中に取り残された要救助者に対し、観察と状態安定化の処置を行いました。現場指揮をしている救助隊や、本部の統括DMAT隊員と連携し、情報伝達等も行いながら、暗く狭い空間での活動を実体験して頂きました。

配布資料 (http://www.iwate-med.ac.jp/saigai/training/practicalDM/docs/2015_slide07.pdf)







- ◆今回の研修を受講して、トリアージについて大学での講義よりもより深いところまで説明していただいて、自分が看護師となって災害現場で活動するようになった際に役に立つ知識を得ることができたと思いました。また、講義を聞いた上での実習でも思ったようにうまく対応できず、日々の学習においても有事のことを想定して学習することがどれだけ重要かということが分かり、今後の学習意欲が掻き立てられる有意義な研修でした。
- ◆今回、日本災害医療学生研修には友人からの誘いで参加だったため興味があまりないまま来たが、実習を含めた研修内容で、その場の状況などを理解しやすく関心を持つことができた。トリアージについては学校の講義でも習ったことがあり、この研修では事例を用いてさらに学びを深めることができたし、判断基準を理解し、自分で判断することができた。瓦礫の下の医療では実際の災害の現場を忠実に再現した部屋での実習ができ、とても貴重な体験となりました。将来そういった場面に遭遇することが少なくても、看護学生として、災害が起きた場所からどういった経験をしてきた患者さんが運ばれ、入院するのか、その後どのような身体的精神的ストレスを受け変化していくのかなどを知ることができ、将来にとっても役立つ内容で、参加して良かったと思った。
- ◆災害医療を学んで、学校で教わったよりも内容が濃く分かりやすかったです。また災害はいつでもどこで起こり得るものか分からないので、災害が起こった際に自分達が率先して取り組めるように今回のような講義や体験をしておかなければいけないと思いました。実際に被災地で働いていた方のお話を聞いて、他職種との連携や他県の方との連携が大切で患者さん達の処置や援助を休まず行うことも大切であるが、自分達の休憩時間を確保しつつ交代で行うことが大切だと感じました。災害の医療を行う際は、情報を共有することや正確な情報を伝えることが大事であると思いました。ただ目に見える身体的な障害だけでなく災害により傷ついた心などの精神面もサポートしていかなければいけないと思いました。また、自分の専門外のことも積極的に行ってきたいと思いました。
- ◆今回の医療学生研修（災害）に参加して、様々な実習を体験することができて良かったです。災害医療に関しては授業の後に講義で触れただけで、あまり興味がありませんでしたが、トリアージの訓練や情報通信訓練、がれきの下の医療などを体験していくにつれ、災害医療に関する基礎知識だけでなく、そこから考えられる治療、対処を学ぶことができました。1番大変だったことは、がれきに見えていた場所に入り狭いところでトリアージに必要な情報を記入すること、それをうまく相手に伝えることが難しかったです。今後このような体験ができることは滅多にないことなので、今回参加できたことをうれしく思いました。
- ◆東日本大震災での現状を踏まえながら災害医療について学習をすることができて良かったです。トランシーバーは初めて使用しました。トランシーバーの利点や欠点といった特徴を知りました。無線用語を使いながら、実際に情報通信を行い、良い経験となりました。瓦礫の下で実際に防護服を着て実習した際は、トリアージを行う係であったが、現場に着いて、いざ目の前に患者を見ると何をしたいのかわからなくなり、自分がパニックになってしまいました。パートナーとの連携についても気にかけることはならず、することがたくさんあると感じました。もし、災害現場で医療しなければならなくなったとき、自分が冷静に対処できるように訓練していかなければならないと思いました。
- ◆自分は災害時には内陸にいて、津波などの被害は受けていなかったのですが、ニュースや友人からの話で悲しさを知り、自分に何かできることはないかと思い参加しました。今回学んだ内容は、実際に活かせる場面が来るかは分かりませんが、もしその機会があるのなら、この研修を踏まえて率先して動いていきたいです。講義自体も分かりやすく、災害後のメンタルケアまで受講することができ良かったです。ありがとうございました。
- ◆災害医療というなかなか聞き慣れない領域の研修でしたが、災害時にどれだけ重要な役割をしているのかがよくわかった。トリアージを使うことで、その人の状態、症状などが瞬時にわかることや、それによって命が助かるかもしれない人が増えるのだとわかりました。避難所運営では、家族構成や地域性など様々な要素を考慮した上で運営する必要があり、考えさせられることが多かったです。がれきの下の医療では、普段地上にいる時と全く状況が変わり必要な情報、救助者の状態などを評価したり聞き出す事がうまくできない状況ですごく大変でした。ですが、あの状況下で正しく情報伝達を行う事が1人でも多くの人を救う上でとても重要なことだとわかりました。
- ◆災害医療理論では、救急医療と災害医療の違いについて学んだ。災害現場では指揮と統制がとても重要であるが、それが乱れがちであると学び、緊急の場面であるからこそ、そのような状況になってしまうのではないかと思った。トリアージではSTART法とPAT法があることを学んだ。そして、事例ごとにトリアージの色の決定について考えたが、意外と収集した情報から決めるのは難しいと思った。それを短い時間で行わなくてはならないため、救急医療は早く正確な判断が求められると思った。トランシーバーでは無線用語を適切に伝えなくてはいけないため落ち着いた冷静な態度が求められると思った。避難所運営では、次々に来る避難民や、要請に対しての判断を素早く決めなくてはならないこと、効率良く行わなくてはならないことがあると分かり、深いと思った。がれきの下の医療では、実際にトランシーバーやトリアージを用い、防護服を着用して患者のもとへ向かったが、いざ立ち会うと、何を聞いて良いのか分からなくなり混乱した。また、冷静に対応しなくてはならないが、がれきの外から
- ら出るように指示されたとき、まだ中にいる患者へどのような対応をすればよいのか分からず、疑問が残る点があった。1人でも多くの人を救出しなければいけないが、時には置いて行かなくてはならない勇気も必要だと思った。朝からの研修だったが、時間が早く感じるくらい内容が濃く、貴重な体験ができた。まだ参加していない人にもぜひ参加してほしい。
- ◆トリアージのやり方についてしっかりと身につけることができたのは大きな収穫だったと思います。またがれきの下の医療という実習では、実際に急病人を目のあたりにしたときに自分が何をしなければならぬのか頭に入っただけでは、実践するのが難しいことが分かりました。災害医療とは日頃からトレーニングを繰り返し、緊急事態にもしっかりと対応していく力を身につけることが最重要だと感じました。とても貴重な体験ができたと思います。今回の研修を通して、災害医療に対する興味が一段と高まりました。今日までの災害医療で出てきた教訓をどのように改善していく必要があるのかを、これから自分なりにしっかり考えていきたいと思っています。
- ◆東日本大震災で被災県といわれる岩手県に住んでいるものの、内陸地域のため沿岸の被災状況はテレビで見る程度でしか知らなかったが、今回の研修を受けたことで実際にどのようなことがあったのかを知るいい機会になりました。私はこの研修を受けるまで、トリアージを行うのは医師だけだと思っていました。トリアージを行うのはコメディカルが多いということに驚きました。実際にトリアージ訓練を行ってみて、今はできていても災害現場に直面した時、冷静に行えるのか少し不安になりました。日頃から非常事態を想定して練習を行うことが必要だと思いました。がれきの下の医療で、本物の装備をしてトリアージを行ったことはとても良い経験になりました。今日は1日ありがとうございました。
- ◆大学の正規の講義では受けられないような体験をたくさんさせていただき非常に勉強になりました。トリアージの仕方、トランシーバーの扱いなど、段階を踏みながら体験させていただきました。それらを活かして実際に「瓦礫の下の医療」にも取り組みました。心臓バクバクでしたが何とか状況確認と処置ができて良かったです。しかし、想像していたより（そして実際は更に）厳しい医療現場であることを感じました。より良い医療をそういった場所においても提供するためには、まだまだ訓練と工夫が必要だと思いました。また避難所運営のグループワークもとても楽しかったです。他の専門を持つ方たちと話し合いながら運営を決める難しさ、視点の多様さを知りました。私の出身地である千葉も近いうちに大きな地震がくると言われています。その時、現場にいる1人の医療者として冷静に対処できるように、今日の経験をもとに今後も精進して参りたいと思います。本日は誠に有り難うございました。
- ◆学校ではまず学ぶことのない内容であり、しかし、震災後の岩手の医療職としては必要な内容であったと思います。また将来に生かせる内容も多く含んでいたため、大変勉強になりました。実技があったことは私たちにとってとてもプラスな経験であり、講義内容をより実感できた時間を過ごすことができました。トリアージの話では、救急事の判断はすべて医師が行うものだと思っていた部分もあり、そういう事態の際には自分たちも判断しなければならないこと、専門外のことも要求されるんだと改めて医療の場というものを考えることができたと思います。このような機会を作って下さり有り難うございました。
- ◆座学は資料がカラフルで見やすかったし、実際に練習としてトリアージの色を判断するのは学校ではやらなかったためとても勉強になりました。災害時は職種を問わず専門外の仕事もしなければならず、医療職を目指している自分も助ける側の人間として自覚を持たないといけないと思いました。今回1番印象深かったのは、瓦礫の下の医療の実習でした。実際に傷病者（役ですが）がいると、何をすればいいのか、座学と違って全く分かりませんでした。着ている服も動き辛いし、ヘルメットも重く、場所も狭い中、冷静に目の前の傷病者を観察するのは、訓練をたくさんしないとできないことだと思いました。正直、自分がどうすればいいのかわたててしまい、目の前の方を氣遣うことができませんでした。こんなに難しいことだと知ることができたことも勉強になりました。講師の方々、職員の方々、本日はありがとうございました。
- ◆直接被災したのではないが被災県民として当時は何もできなかった事がずっと引っかかっていたので、今回このような研修を受ける機会を持つことが出来て本当に嬉しかったです。研修では実際に災害が起こった時、どのような事がおきるか、またその時どうすればよいか、概論等の座学や、実際の場を想定して実習を行いました。実際災害が起こった時、どのように対処すればよいか、医療に携わる人として職種関係なく助け合わなければいけないことが切に伝わってきました。実習ではトリアージを記入した本部に無線で報告する係でした。無線で報告する時、気持ちに整理がつかなくて「なんとかしなくちゃ」という気持ち先走ってしまい、うまくいきませんでした。災害が起こった時、きっとその時もそういう気持ちになるのだから等考えながら行いました。研修を通して感じたことは、いつ起こるか分からない災害に対して自分達医療職がもっと災害についての知識を深めて多くの人を救えるように常日頃から覚悟しておかなければいけないと感じました。
- ◆災害時の医療現場のことについて詳しく知ることができる良い機会になりました。医療のことだけでなく避難所のことについてや、連絡手段、方法について学ぶことができました。今後また実践する機会があったら、今日学んだことを生かして実践したいと思います。

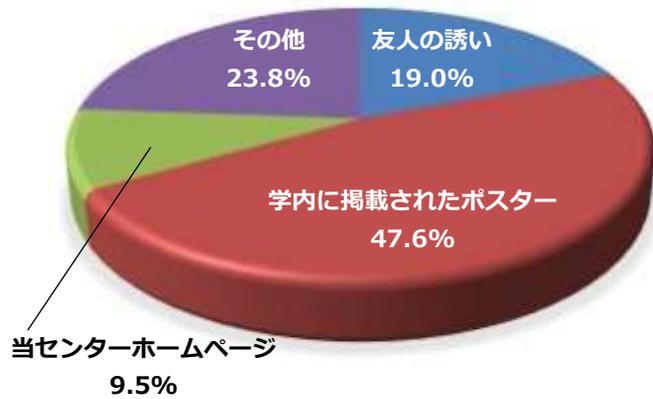
◆災害医療の基本的なところから詳しく講義いただき、参考となりました。看護学校での授業よりも具体的に東日本大震災や阪神淡路大震災などの災害をもとに講義いただき分かりやすく実感できました。私は東日本大震災の時は内陸地域で災害を経験し、停電していたため災害の状態やどのような災害医療が行われていたのか実感することはできなかったため、DMATの活動や沿岸部がどのような状態だったか具体的には初めて知ることができました。がれきの下の医療の実習では、事前にどのように行えばよいか説明されていたが、実施の際には、初めて体験する状況に動揺してしまいスムーズに行うことができず、自己紹介なども忘れてしまいました。退去命令が出て、患者様から離れなければいけない時には、何と声をかけていいのかわからず、頭を下げるしかできませんでした。患者様や救助側の辛い気持ちが大きいことを実感しました。助けられた命があったという反省を聞くと、とても辛い気持ちになり、今後に繋げなければと強く思いました。このような機会を作っていただきありがとうございました。

◆1日の研修で、災害医療についての概論から、トリアージの方法、トランシーバーの扱い方、避難所運営についてのグループワーク、メンタルヘルス、災害時の状況など、いろいろな面から災害医療について考える機会になった。実際に装備をつけて傷病者のいるがれきの中に入り様子を確認したり、トリアージタグを書いたり、本部と連絡を取ったりと1日の講義で学んだことを統合して実習できたことで、学びが深まって、身に付いたように感じた。災害には種類があるが、同じ地震であってもその土地や状況によって必要なことは全く違って、常に様々な想定をして対応できるようにしておかなければならないと感じた。また医療者だけでなく、住民一人一人が災害について考える機会がもっと増えると、意識が高まり防災につながると感じました。看護学生のうちにあまり経験できない実習を行ったり災害について考える研修に参加できたことは、今後の私自身の働き方を考え直す機会にもなり、有意義な時間でした。

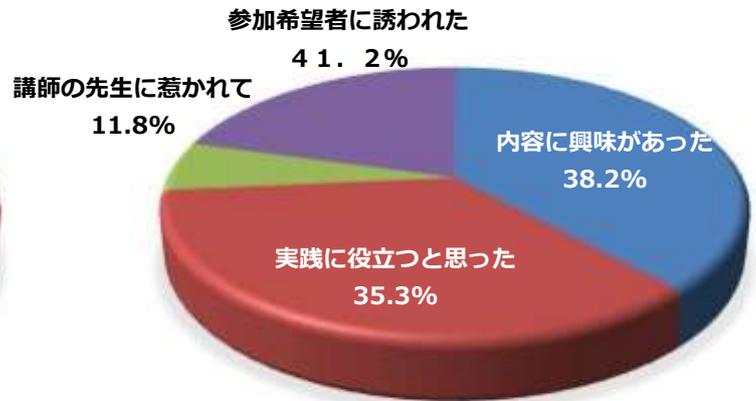
アンケート集計結果

【アンケート回答者数 17名】

1. 今回の研修について、どのようにして知りましたか？
(複数回答可)



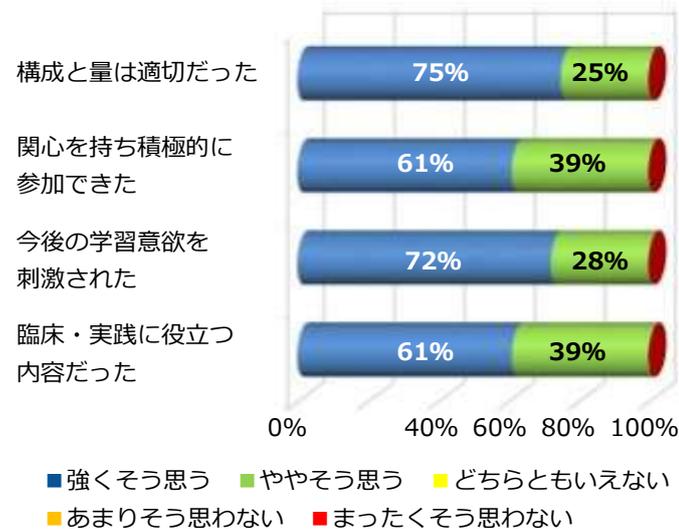
2. 受講した動機についてあてはまるものすべてに☑をしてください。
(複数回答可)



3. それぞれの感想について、以下の選択肢からお選びください。

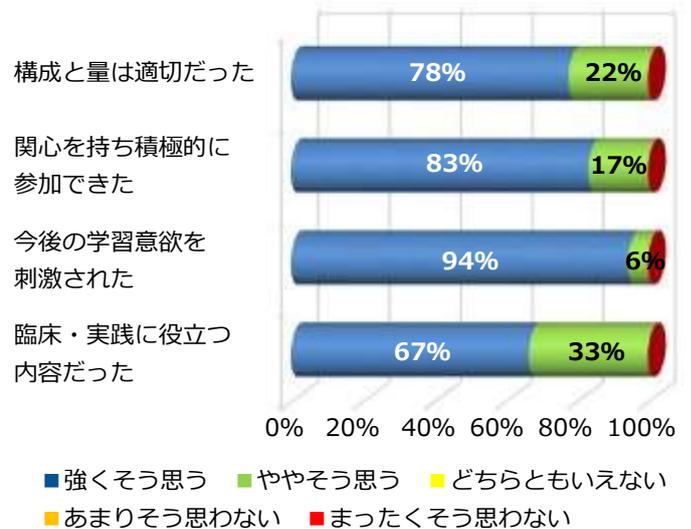
■ 講義 | 災害医療について

岩手医科大学災害医学講座 教授 眞瀬 智彦



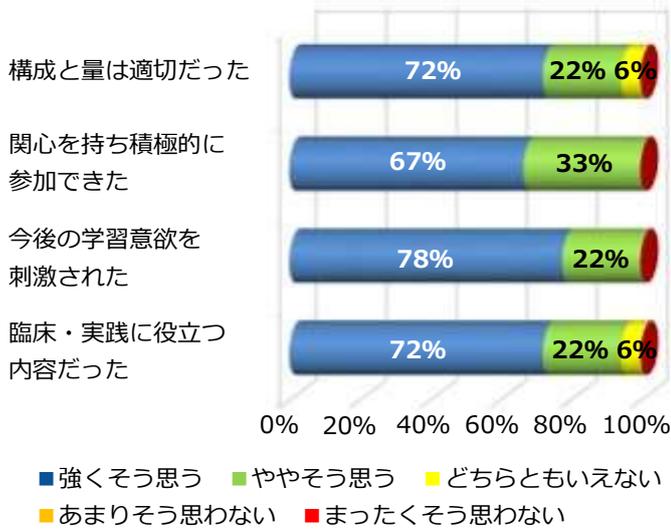
■ 講義 | トリアージについて

岩手医科大学災害医学講座 助教 藤原 弘之



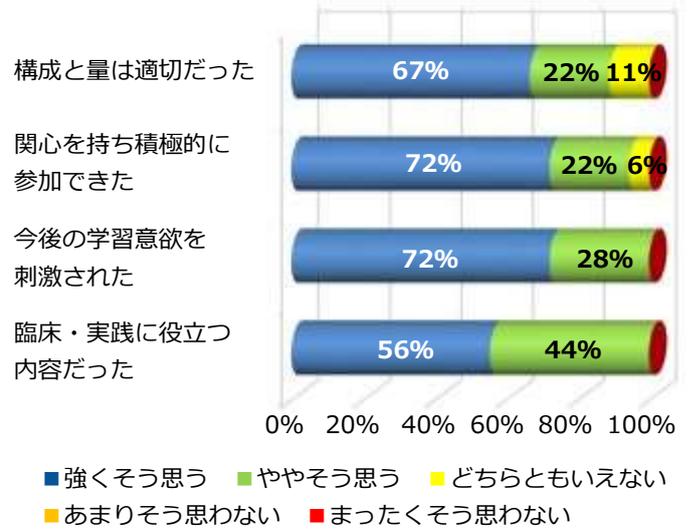
■ 講義 | 情報通信訓練

岩手医科大学災害時地域医療支援教育センター 奥野 史寛



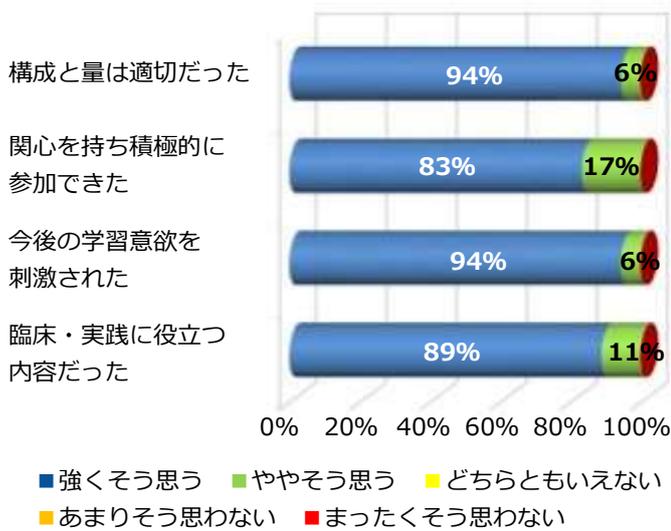
■ 机上シミュレーション | 避難所運営

岩手医科大学災害医学講座 教授 眞瀬 智彦



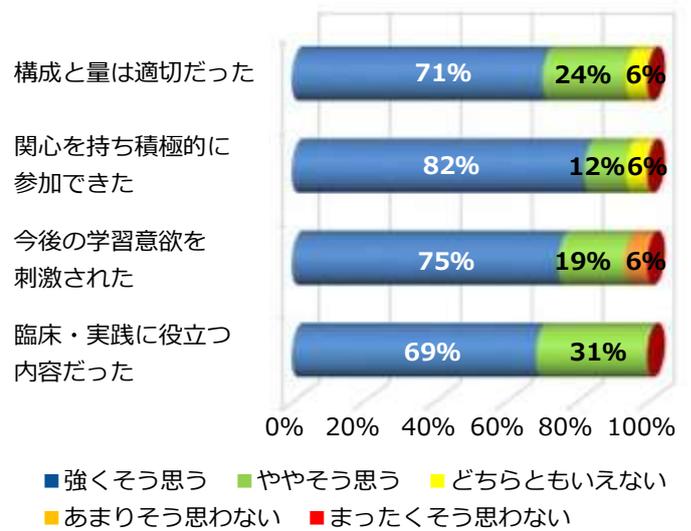
■ 実習 | がれきの下の医療

岩手医科大学災害医学講座 教授 眞瀬 智彦



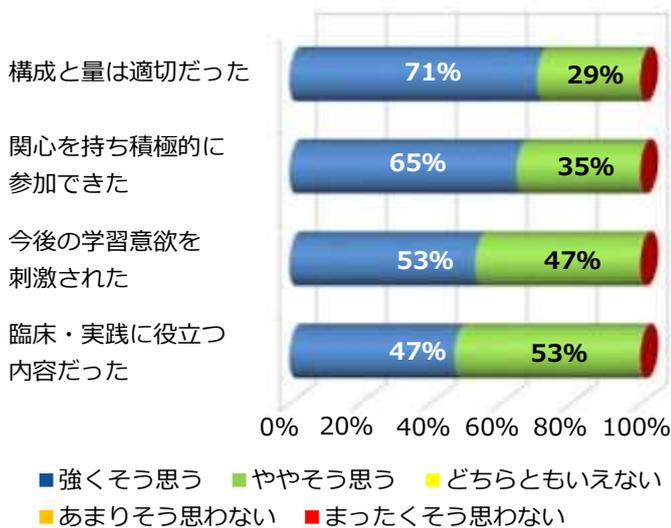
■ 講義 | 災害時におけるメンタルヘルスケア

東北大学病院災害対応マネジメントセンター 助手 阿部 喜子



■ 講義 | 後期研修医の目線で感じた震災時の状況と、その後の取り組み

岩手医科大学産婦人科学講座 千田 英之



4. 研修に関して、改善してほしいこと。

- ・もっと体験を増やしてほしい。
- ・研修生を募集する学校（岩手看護大なら看護師）と関係する医療職者などでもできればいいほしい。
- ・メンタルヘルスについても、グループワークやロールプレイのようなものがあるとよりうれしかったです。
- ・避難所のグループワークをせっかくなのでフルでやってみたかった。
- ・研修内容としては問題ないように思いました。講義の間に10分5分でも良いので休憩があるとありがたいです。
- ・避難所運営の実習時間をもっと取ってほしいと思った。
- ・避難所運営のグループディスカッションの時間をもう少し多く取ってほしい。

5. 研修に関して、追加してほしい研修内容など

- ・実践で役立つ研修後がもっとあるといいと思った。
- ・災害医療に携わる看護師などの話を聞いてみたかった。
- ・災害時における看護職・薬剤師などの話も聞いてみたい。
- ・心肺蘇生についても触れてほしいと思いました。
- ・DMATの看護師の講義

6. 研修に関して、よかったこと

- ・がれきの下の医療というなかなか体験できないことを講義・実技を通してたくさん知る事が出来た。
- ・災害医療の現場での実践でトリアージの記入やがれきの中での治療などの実習ができてよかった。
- ・がれきの下の医療では、滅多に体験することができないことをすることができ、とても良かった。次回があるのならば、また参加したいです。
- ・実際に説明を聞いてからの実践でよく理解できたし、学校の授業で学ぶことのできない体験ができ、貴重なことができて良かった。もっと色々な人にこの研修を知ってもらいたいと思った。内容が濃く、楽しかった。
- ・災害医療について細かく項目毎に分け、一つ一つ理解を深めることができる内容だった。
- ・普段体験できないような場面でトリアージを実施したことやトランシーバーを使用したこと。
- ・実際に活動着を着て災害現場を想定した設備で処置を行い、今後の学習欲が高まった。
- ・実習や、自分で判断するところも多く、ただ話を聞くよりも身についたと思う。いつ来るかわからない災害に対し、何の備えもないまま対処することは非常にストレスであると思う。このような機会を頂き、シミュレーションできたことは私にとってとても大きなものになりました。ありがとうございました。
- ・トリアージのやり方を身につけられた。
- ・資料、説明とても分かりやすかったです。
- ・被災県民として何かできないかと思っていたので、今回このような研修を受ける機会を頂き、本当にためになる話をたくさん聞かせてもらったと思う。
- ・全体的に実習が多く、興味を持って取り組めたとし、災害時に医療関係者が動くことが想像していたより大変だということが判りました。
- ・実習が多くて、座学で習ったことを実践することができたところが良かったです。
- ・災害の実体験を基にしたお話がとても参考になりました。実際に防護服を着てがれきの下の医療を体験できてとても良い経験になりました。ありがとうございました。
- ・いろいろな面から災害医療について考え、学ぶことができた。装備を付けて、実際の現場を想定していて、なかなか経験できないことが出来た。災害医療について、今までよりもかなり関心が高まった。



平成27年度 日本災害医療学生研修を終えて

皆さん研修ご苦労様でした。日本災害医療学生研修を終えて一言申し上げます。

本研修は東日本大震災の教訓から、今後の医療・医学を支えていくであろう全国の医療系学生を募った研修です。災害医療の基礎的な知識の習得と、トリアージや机上シミュレーション、がれきの下の医療シミュレーション等の実習を通し、災害医療に興味・関心を持っていただければと思い企画しております。また実際に東日本大震災時に被災地で活動された方のお話を伺うことで、どのような規模の被害が発生したのか、どのような医療活動が行われたのか等、当時の様子を感じていただけたのではないかと思います。受講された皆さんはさまざまな思いで参加されたことと思いますが、多少でも災害医療に興味を持たれた方々が集まり、意見を交わし、人間関係を築きあげることができたことは、非常に有意義であったと思います。特に今回からは、医学生だけでなく広く医療系学生ということで募集をいたしましたところ、看護師や作業療法士を目指す学生の皆さんにもご参加を頂き、学生時代には普段なかなかコミュニケーションする機会が少ない面々が一緒にグループワークなどを通して交流することが出来たと思います。

今日学んだことは、今後必ず起こり得る災害時に少しでも役に立つものであれば幸いです。何かと行き届かないことがあったかとは思いますが、多数のご参加を頂き、誠に感謝しております。

最後にご講演頂いた講師の皆様、また研修会にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

岩手医科大学災害医学講座 教授

眞瀬 智彦





岩手医科大学
災害時地域医療支援教育センター
 Center for research and training on community health services during disaster

